

第105号
2011年5月1日発行

愛道

あいどう



テーマ 「望み」

社会福祉法人 足羽福社会 <http://www.asuwafukushikai.jp/>



「つながり」の中で“望む”こと

社会福祉法人足羽福祉会 理事長 高村昌裕

本年3月11日に起きた東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々および関係者の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。当法人としても、できる限りの復興支援をさせていただき所存です。

この震災によって、地震・津波といった自然のなせる「天災」のすさまじさに対する無力感、そして原発事故におけるリスク対策不備といった「人災」に対する憤りや不安の増幅といった、さまざまな感情が入り乱れながら私たちを覆っています。これまで経験したことのない問題となって、私たちの目の前に大きく立ちふさがりました。これからどう立ち直っていくのか、誰もが見通しをもてない現状です。

しかし、起きてしまった惨状に対して、私たち日本人が全体で悲しみを受け止め、冷静に助けを求め、互いに声をかけ励まし合うといった、自分以外の誰かとの「つながり」を大切にした行動があちらこちらで起きています。義援金や救援物資の搬送、人的派遣による救援活動といった具体的な支援以外に、毎日、日本中そして世界中から現地で被災された方々へのお見舞いや応援のメッセージが届けられ、被災地からのメッセージもメディアを通して流れています。

この誰かと「つながり」があるという感覚は、人が人として生きていく上で、本当に不可欠なものだと思います。最近「無縁社会」という言葉を耳にしますが、他の誰とも「つながり」を感じられない状態で、未来への願いや望みを抱けるのでしょうか。今、東北地方に向けられた「つながり」の輪が、一時的なものであってはならないと強く感じています。

このことは福祉サービスの根幹にも通じるものがあります。例えば食事・排せつ・入浴などの介護は、援助行為そのものだけがサービスというわけではなく、かわりを通して利用者の方と私たち職員が「安心」「満足」「信頼」「感謝」という「つながり」を感じることができます。それこそが私たちの大切にしているサービスであり、福祉職員としての醍醐味でもあるのです。今号の“望み”というテーマにそって、さまざまな形で利用者の方や地域社会との「つながり」をより太くしていこうとする各施設の取り組みを紹介させていただきます。

「地球規模で考え、足元から行動せよ“Think globally, Act locally”」という言葉にもあるように、東北地方の復興を願い続けながら、私たち自身のサービスをより確かなものにすべく、今後も誠心誠意取り組んでまいります。



目次 もくじ

- 2 理事長あいさつ
「つながり」の中で“望む”こと
- 4 地域のシンボルタワー ----- 足羽東保育園
- 6 在宅支援の第一歩 ----- 足羽学園
～望まれるサービスを提供するために～
- 8 「見えなかったもの」 ----- 足羽更生園
余暇活動…そして、見えてきたもの
- 10 夢への一歩を踏みしめながら ----- 足羽ワークセンター
～就職から得たもの～
- 12 痛みに寄り添いながら ----- 愛全園
床ずれにならない生活のために
- 14 楽しく、おいしく ----- 足羽利生苑
- 16 平成23年度 足羽福祉会 新任職員紹介
- 18 愛のささえ



「表紙について」

写真は、小学部に通う男の子です。景色を見ながらどんなことを感じているんでしょうね。

さわやかな自然の風を感じながら、のびのびと成長していただくことが私たちの望みです。

(足羽学園 杉本元将)

地域のシンボルタワー

足羽東保育園の子どもたちは勿論、地域の子どももお年寄りの方々も、保育園で楽しく過ごしていたきたいという願いから、保育園の増築を行いました。平成22年11月に完成した新センターの外観は「光、希望、明るい未来」をイメージした虹がモチーフになっており、完成後、さまざまな取り組みが行われています。



『ふれあいホール』で集団遊びを楽しむ子どもたち

夢心地の空間

1月24日に音楽講師の金巻さんと、絵本の読み聞かせボランティアの東さんを迎え『お話と音楽の世界』を行いました。

待ち望んでいたホールに初めて入った子どもたちは「わあ広い！」と歓声をあげ、目を輝かせながら走り回り、新センターの探索に大はしゃぎでした。

保護者の方からは「ゆったりとした空間で居心地が良いです。木で造られていて温もりを感じます」など、子どもたちの新しい生活の場に、大変喜ばれていました。



流れるような口調の朗読と、絵本に合わせたピアノのメロディや歌声がホール全体に広がり、子どもたちはそのしつとりとした雰囲気を引き込まれ、穏やかな表情で見入っていました。また、音の響きに自然と体をゆすり、心地良さと楽しさを全身で感じていました。

演奏後お二人に、保育園で行いたいと思われた理由についてインタビューをしました。

金巻 「以前から、足羽東保育園の子どもたちにこの演奏を見てもらえたらと思うっていました。新センターが完成し、念願の演奏会

を開くことができ、本当にうれしかったです。とても綺麗な場所で演奏ができて、子どもたちが喜んでる姿から、たくさんエネルギーをもらいました」

東 「昨年から金巻さんと演奏を行い、お年寄りの方や子どもさんにも大好評で。みなさんとお話の世界で一体になれたと感じました」

お二人は終始、笑顔で話をされていました。新センター完成が演奏会を開くきっかけとなり、お二人とのつながりができました。



広々としたステージで、生演奏と朗読を披露する金巻さん(左)と東さん(右)

心が通い合う空間

2月24日には、保育園の地区にある東大味町の老人会『ほのぼのサロン』の方々をお招きし、交流を行いました。ほのぼのサロンの方々は、保育園が新センターを建てることを知り『この園舎が建ったら、ぜひ保育園に来て子どもたちと遊びたい』という期待が膨らんだそうです。園としても、お年寄りの方をお招きし、交流をしたいと願っており、今回の交流が実現しました。

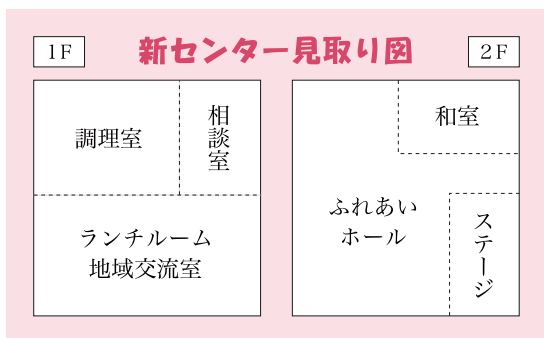
当日は、ふれあいホールであやとりや折り紙遊びを楽しみました。また、肌と肌との触れ合いができるよう、ダンスも行いました。その後、ランチルームで給食も一緒に食べ、お年寄りの方々は「みんな元気でいっぱい食べるの。見てるだけで寿命のびたわ」「人なつこくてほんと可愛い」と、子どもたち

に笑顔で話しかけられていました。帰られる時には「みんなのことが好きやわ。また来るので」「待ってるね」と握手をして、別れを惜しんでいました。その姿を見て、職員もとても優しい気持ちになりました。



こうした交流はすべて、子どもたちの豊かな心の育みにつながっていきます。また、地域の方も、子どもたちとの触れ合いを喜んでおり、温かい交流の輪が今まで以上に広がっています。

今後も、地域の中の保育園として、子育て就労支援（一時預かり保育子育て相談・保育園開放）の充実や、母親同士の語らいの場、地域住民との集いの場の提供など、地域が求める支援センターを目指していきます。



「保護者の方が、職員にいつでも相談できるようにしていきたい」



「保護者対象に、手作りおやつ教室を開きたい」



「入園前の子を招いて試食会がしたいな」

みんなの広場
職員が望む、新センターでの新しい取り組みをご紹介します

在宅支援の第一歩

〜望まれるサービスを提供するために〜

ため「フレンズみゆき」を開所しました。

ニーズに応える

障がいがある方の地域生活実現のためには、どのような場面においても、誰からも区別されることなく、平等な社会参加ができる社会創り、地域での生活支援の充実が求められています。

そこで、私たち足羽学園では、在宅で障がいのある子どもを育てられる親御さんにとって必要なのは、どんなサービスなのだろう？足羽学園にできることは何なのだろう？こうした問いをずっと持ち続け、話し合ってきました。

結果、地域の中の家庭的な環境で、のびのびと過ごせる活動を提供したいという想いに至り、平成22年12月20日、福井市御幸4丁目

「フレンズみゆき」

2F 足羽学園
日中一時支援事業

1F 足羽更生園
日中活動/生活介護事業

足羽学園は、福井市の郊外に位置し、さまざまな理由から、これまで利用したくてもなかなか足をお運びいただけない現実がありました。そこで、市街地での生活を基盤とすること家族の送迎等の負担を考え、フレンズみゆきは市街地の立地を実現しました。

また、足羽学園の長い歴史の中で培われた支援技術を活かし、「もつと小規模で家庭的な雰囲気の中で利用者の方それぞれに、丁寧な支援を行ってほしい」というニーズに対し、フレンズみゆきは日中一時支援利用の方のための事業所であり、利用人数に

制限を持つことで、静かな環境の提供が可能になりました。また、それぞれの成長、好みに合わせた支援もできるようになりました。

このような声に応えられる場所として、フレンズみゆきに期待が寄せられています。もちろん、これまで同様に足羽学園での日中一時支援



おやつ作り



ドライブ



お買い物

「フレンズみゆき」「足羽学園」日中一時支援の比較

	フレンズみゆき	足羽学園内
立地	市街地に位置し、ご家族には送迎時間の短縮となる。	福井市宿布町にあり、近くには足羽川が流れ、自然から四季を感じる環境にある。
建物	木造2階建て 2階部分(約32畳)	鉄骨2階建て 大浴場・体育館完備
利用時間	8:30~19:00 ※応相談	24時間受け入れ 宿泊利用もできます。
活動単位	10名以下 (少人数、静かな環境で活動)	20名~30名 (足羽学園の子どもたちと一緒に活動) 異年齢児交流
活動スペース	2部屋に仕切られ、和室でのんびりしたり、広めの部屋ではTVを観たり、机に向かって物作りができます。	体育館・中庭芝生広場 広々としたフロアで思いっきり体を動かすことができます。
主な活動内容	創作活動(図画工作) ミュージックケア 買い物(おやつ) 調理(手作りおやつ)	体育館活動 ミュージックケア プール(夏期) 喫茶「銀河」(日曜日)

選べるサービス

事業も、知的障がい児入所施設と併設で継続して行っています。

両方の施設を利用された利用者の方、ご家族からこんな声が聞かれました。

- ・「うちの子は静かなフレンズみゆきがいい」
- ・「うちの子は静かなフレンズが好きみたい。学園は楽しいけど騒がしいときもあるのよね」
- ・「ここ(足羽学園)で寝る」
- ・「フレンズは狭すぎる。うちの子は、学園の広い所で

体を動かしているほうが好きみたい」

どの利用者の方も安らげる(望む)環境を提供すること、家族の生活リズムを変えずに、無理なくお子さんをお預かりし、健やかな心と体の発達を支援していくことが望まれていたことであり、私たちの使命であると感じています。

サービスに幅を持つことは利用される方にとっては選択肢が増えるということですが、フレンズみゆき、足羽学園どちらの事業所を利用するのか、実際の活動を見て、体験して、利用される方とご家族が望むサービスを利用していただきたいと思います。

ご家族の皆様と一緒に一人ひとりの育ちの可能性を引き出していけるよう、そして成長を喜び合えるよう頑張つてまいります。

みんなの広場 足羽学園編

平成22年度 嶺北養護学校卒業生紹介
夢や希望を胸に、次のステップに進みます。

小学部卒業…2名



勉強、遊び
頑張ります。

中学部卒業…2名



調理の仕事が
したいです。

高等部卒業…1名



お仕事
がんばります。



いっぱいお手伝い
したい!



勉強します。

保護者・在校生・職員からの一言メッセージ

・一歩一歩成長していく姿に、嬉しさと、頼もしさを感じています。たくさん学び、たくさん遊んでください。 保護者より

・おめでとうございます。お兄さん、お姉さんは私たちのあこがれです。 在校生より

・いろいろな経験を積んで、ステップアップしていく姿を見るのが楽しみです。 職員より

「見えなかったもの」

余暇活動…そして、見えてきたもの

足羽更生園には、利用者の方が生活される3つのスペース(寮)があります。利用者の方にとって、1日の日課が終わった後の寮での余暇時間の過ごし方は、とても重要な意味を持ちます。今回、その余暇時間のあり方を考え、取り組んできた内容をご紹介します。

【余暇の時間てなに?】

「余暇時間」というと、多くの人にとっては、趣味に充てる時間、好きなことをする時間を連想されるかもしれませんが、

しかし、知的障がいの利用者の方にとっては、必ずしもそうではないのです。

自由時間は「何をしていいのかわからない時間」となり、多くの利用者の方が、各寮にある共同スペースに集まりました。

【活動場所を広げよう】

まず、共同スペース以外に、過ごせる場所として体育館を開放して、自由に参加できる活動メニューを作りました。

ラジオ体操や歩行運動といった身体を動かす簡単な活動メニューを提供することで、共同スペースへの集まりを減らそうとしたのです。

【試行錯誤】

その結果、騒々しい環境が生まれ、利用者の方同士トラブルが頻繁に起きました。これは、時間への対応に困った一例といえます。

このような環境を改善したいという職員の思いから取り組みは始まりました。

しかし、そうした活動メニュー提供の当初は、職員の期待通りにはいきませんでした。自主的に参加される利用者の方がほとんどいなくなりました。

それでも、活動を継続し



貼り絵でバナナを作っています

おもしろアイデアベスト3!!!



音楽とダンス



のびのび時間!



人気のNo.1キックボード

経過を振り返りながら、意見交換を重ねていくと、利用者の方にとって、ラジオ体操は「難しい」「楽しくない」から参加しないのでは?という気づきがありました。そして「楽しい活動」があれば参加してもらえるのではないかと考え遊具を使う時間・音楽の時間など多彩な活動メニューを取り入れていきました。

すると、自主的に参加される利用者の方が増え、活動も定着してきました。そして、活動を楽しんでいる様子が職員にも伝わってきました。

【見えてきたニーズ】

きっかけは「何もすることがない時間」を埋めようという職員の思いからでした。

しかし、利用者の方の立場に立てば、トラブルを起こしたくて起こしているはずがありません。活動を楽

しむ利用者の方の表情はとも穏やかであり、求めてもいるもの、楽しいこと・好きなことができる時間だと実感しました。

今まで職員は、施設の中で今の生活が当たり前という思いが、利用者の方の求めてあるものを見えなくしていたのかもしれない。

【アイデアを出し合おう】

こうした反省をもとに、今では、職員が活動メニューのおもしろいアイデアが思いつくとさつそくそれを取り入れ、利用者の方の反応を見ている。そして、さまざまな余暇活動を楽しそうに過ごしている姿、集中している姿を見ると職員には「やった」という満足感や達成感が溢れてきます。

その思いは、次への活力源になつていきます。

そして、他の寮でおもしろい余暇を見かけると、自分たちの寮に工夫をしながら積極的に導入しています。また、お互いの寮が成功したこと・工夫したことなどを報告し合う場を定期的に設け、振り返りを続けていきます。



見て、育て、実りを食す
家庭菜園♥(女子寮)

【これからも】

このような余暇時間の活動メニューの充実、利用者の方の「望み」の1つであったと思います。自分自身の活動に幅ができ、仲間同士、または一人であつても楽しめる時間ができたことで、穏やかな表情が多くなり、その結果、余暇時間のトラブルは目に見えて少なくなりました。

利用者の方にとって、この充実が大きいものなのか小さいものなのかはわかりません。しかし、私たち職員は、これからも利用者の方の「望み」を感じとり、ひとつでも多くその実現に向けて取り組んでいきます。

みんなの広場

「斉藤さんの手紙」

私はこの春、23年勤めた足羽更生園を定年退職することになりました。これまでの思い出は、とても一言では語れません。いうならば、夫や娘たちと過ごした年月と同じくらい、苦楽をこの職場で共にしてきたのです。同僚たち、利用者の方との思い出を振り返るとつい涙ぐんでしまいます。入社当時お世話をしていた小さな子どもが、いつの間にか成人式を迎え、立派な大人へと成長したこと、上司に怒られたことや時には反発して自分の思いをぶつけたこと…利用者の方との出会いと別れ、喜びや悲しみ、くやしき、感動、いろいろな思いを感じながらこの仕事をしてきました。私は、この仕事が本当に好きでした。そして、多くの仲間を支えられたからこそ、ここまでくることができました。

私は、利用者の方や職員との間には「絆」があると思っています。なんでも言い合えるそんな「絆」をいつまでも大切にしてください。長くこの仕事に就けたことに誇りと感謝の思いいっぱいです。皆様本当にありがとうございました。

足羽更生園

斉藤 紀子



夢への一歩を踏みしめながら

就職から得たもの

「夢」…それは誰しもが持つ、自分自身への望み。

足羽ワークセンターの利

用者の方も同じです。

その中から、施設外就労(職

業訓練)と実習を経て、愛全

園にめでたく就職された吉

田雅貴まさたかさんをその夢とも

に紹介します。

今回の主役

吉田さんを一言でいうと「真直で真面目な方」です。就職に向けた実習を愛全園で行うことが決まった頃は不安気に、職員に「やれるだろうか」「だめならどうしよう」と口にするのが多くみられました。

しかし、日々実習を重ねることで「わからないことは職員に聞く」「自ら考えをめぐらせ、仕事に工夫をする」などの積極性が垣間見られるようになりました。この努力が認められ、長年の夢であった就職の道が開けたのです。その夢が実現した今、就職したことでの心境の変化があったのか、また、改めて今後の夢について率直に語っていただきました。



愛全園の職員からも頼りにされています。

就職してから変わったと思うことは？

職員の方々が本当に自分のことを気にかけてくれることがわかり、とてもうれしいです。自分のせいで仕事が遅れているときであっても「そろそろ電車の時間だから上がって良いよ」と声をかけてくださいます。そんな優しい言葉に甘えることなく、休み時間が終わる少し前には、仕事場に戻り、少しでも早く仕事が終わるよう行動しようと考えようになりました。

働いていて、いちばん楽しみなことは？

家族と過ごす時間です。初給料をいただき、その金額を見てびっくりしました。こんなにもらって良いのかと明細から目が離せませんでした。でも、たくさん給料がもらえたからといって、無駄遣いすることなく、貯金をしていきたいと思っています。僕は仕事をすることが親孝行につながると思います。家族旅行に連れて行ったり、テレビを買ったりする日は、まだまだ遠い日になると思いますが、まずはしっかり仕事をしたいと思っています。

将来の夢は？

今は、愛全園の利用者の方の笑顔がいちばん大切です。また、職員の方と接することも自分の中では大切なことだと感じています。自分がたく

さんの人たちにしてもらったように、自分を必要としてくれる人たちに、日々丁寧に接し、楽しい人だと思ってもらえることが今の自分の夢です。

夢に向かって

「就職する」という夢を持ち続け、それが叶った今、吉田さんは新たな夢に向かって歩み始めています。仕事を一生懸命することは、親孝行や利用者の方々の笑顔、職員同士の絆の強さになることに気づき、日々それを実践しています。

インタビューに対する堂々とした受け答えからは、愛全



ピカピカに磨き上げます！

園職員としての自覚が感じられました。

今回、以前吉田さんと共に働いていた他の利用者の方とご家族から、吉田さんへのメッセージをいただきました。

これまで苦楽をともにした仲間の応援やご家族の協力が心の支えとなり、後押しになり、吉田さんの新たな夢は広がっていくと思います。

(仲間からのエール)

● 身体には気をつけて、お仕事頑張ってください。
(女性 Aさん)

● 目標にしていたので自分もすっかりと就職したい。
(男性 Bさん)

● 自分は就職はできないかも知れないが、一緒に過ごした仲間として見守りたい。
(男性 Cさん)

職員としても吉田さん自身が歩み始めた夢が、二歩、三歩と確実に進むよう、あたたかく見守りながら、その夢が叶うことを心より願っています。

(ご家族の思い)

愛全園で正式に就職できることになって本当に良かったと思っています。雅貴のことをいつも気にかけてくださる職員さんに支えられながら、一日一日を雅貴なりに少しでもお役に立てられるように愛全園で頑張っています。

ここまでこれたのは、本当に足羽ワークセンターや愛全園の職員さんの親切なご指導のおかげだということも一日も忘れることなく、作業に励んで欲しいです。また、雅貴なりに利用者の方々にいたわりの気持ちを常に持って、あいさつや会釈を忘れないで欲しいです。
(母より)

みんなの広場

足羽ワークセンター職員紹介☆

足羽ワークセンターに勤務する高山洋平支援員は、とても家庭的です。料理を作ることが大好きで、欠かさずお手製のお弁当を持ってきます。

お弁当作りは、何かと手間がかかってしまうため、コンビニで買ってくる職員が多い中、お子さんが寝てから夜のうちに作るそうです。その“できれば”には、女性職員も舌を巻きます。

そこで、今回、自慢のお弁当作りの様子を公開していただきました☆



真剣ですね～!



彩り鮮やかですね☆

痛みに寄り添いながら

床ずれにならない生活のために

「痛みのない過ごし方を」

高齢による身体機能の低下にともない危険となるものの一つに床ずれが挙げられます。愛全園ではチーム一丸となり、利用者の方の痛みを感じ取り、床ずれの予防・改善に取り組んでいます。この取り組みにより、平成22年度には床ずれの見られた29人の方のうち18人の方の床ずれの改善・完治につながりました。その中で改善が見られたAさんの事例をご紹介します。

「痛みのない過ごし方を」
Aさん(89歳・男性) 糖尿病を患われています。床ずれは平成22年6月後半に右足の外側にできました。寝ているときのAさんは、体を動かし、右手でベッド柵を持ち右側を向くことが多いため、同じ場所に圧がかかり、床ずれができたのではないかと考えました。

床ずれって何？

体重の集中する部位と寝具などにはさまれた皮膚組織が圧迫され、血液の流れが悪くなり皮膚や組織が損傷することです。

〈起こりやすい要因は?〉

- 長時間、同じ姿勢で過ごすことでの圧迫
- 栄養状態の低下
- 湿度気
- 摩擦
- 極度のやせ
- 全身機能の状態の低下など

介護部



体位変換(体の向きを変えること)

右向きの圧迫を防ぐため左向きと仰向けに限定しました。

クッションの活用

膝下と右足の下に当て、圧をやわらげました。

声かけやかかわり

夜に声を出された時や動きが見られた時には、声をかけ、かかわりを持つことで安心して過ごせるよう心がけていきました。

Aさんの床ずれ改善に向けて

食養部



栄養状態の観察

食事の摂取量や体重などに変化が無いか見ていきました。現状では栄養状態や血液検査に異常は無いので補助食品は使わずに様子を見ました。

看護部



医療的処置

嘱託医の診断のもと医療処置(感染治療剤クリームを塗りガーゼでの保護)を継続して行いました。また、処置の際に床ずれの経過を見ていきました。

「思いを受け入れて」

そのため、上の図のような対応を、それぞれの部署で実施しました。

しかし、改善の効果はなかなか見えてきませんでした。体位変換を行っても、時間がたつと右に向く行動は続き、クッションもずれることが多く見られたのです。

そこで10月後半には、右に向きたいAさんの思いを抑えずそのまま受け入れ、同じ姿勢でも空気調整により圧が分散するタイプのエアマットレスに変更を行いました。また、引き続き体位変換、クッションの活用を行いました。

そして、本人の思いをくみ取れるように声をかけ、少しでも痛

みがやわらぎ、安心できるよ
うにかかわっていききました。

「見えてきた望み」

エアマットに変更した初日、
Aさんの気分はすぐれない
様子でした。原因は特定でき
ませんが、圧のかかり方の違
いで、船酔いのような状態に
なったと考えられました。そ
の後は、体調も回復されたの

で継続して気分に変化がな
いかを見ていききました。

そして床ずれの発生から
8か月後、徐々に改善が見ら
れてきたのです。

改善前は処置をする際に
床ずれの部分で痛がる様子
が見られましたが、改善後は
痛みを訴えることも少なくなっ
ていきました。

『苦痛なく過ごしていただ
きたい』という思いによっ
て望みが見えてきたのです。

『その方の思いを知ろうと
すること』 介護はすべてこ
こから始まります。このこと
は、事例を通し、床ずれの予
防・改善にも必要であること
を改めて気づくことができ
ました。

『苦痛なく過ごしたい』と
いう思いは皆さんもつてお
られると思います。しかし、
痛みがあるときに、思いを言
葉に出して伝えられる方ば
かりではありません。その思
いやその人の変化をかわか
りの中で気づける心が必要
だと思えます。

今後もその方の心に寄り
添いながら支援することで、
利用者の皆さんが安らかに
過ごせることを望みます。



H23.2月7日
改善後、腫れ赤みともに軽減され、
傷も小さくなりました

H22.8月10日
改善前は、床ずれの周囲に腫れと赤み
が見られました



Aさんの奥さんと一緒に

みんなの広場

今月は「子どもの日」があるので、改めて節句の由来についてご紹介します。

節句(節供とも書く)とは、1年の節目となる日のことで最初は中国から伝わった暦上の
節目の奇数が重なる日に邪気を祓う行事のことでしたが、日本に伝わった後、少しずつ変
化してきたようです。桃の節句は、もともとは人形が身代わりとなる流し雛の儀式が起源
となり、端午の節句は、菖蒲しょうぶが尚武しょうぶ(武道・武勇を重んじること)と同じ読みであることな
どから男の子の成長を祈る儀式となりました。



利用者の方に何うと「こんな風にするようになったのは終戦後だな～」昔は大きな庄屋さんに人形があるだけで、うちんところにはな
かったで、お呼ばれして見せてもらってうらやましかったわ」と、いろいろな声を聞く
ことができました。

季節を感じる儀式を通して、自分が経験できなかった思いと、娘さんや息子さん、
お孫さんの成長を願う気持ち(望み)を重ねているのではないのでしょうか。

楽しく、おいしく



前田管理栄養士。平成21年4月、足羽利生苑に配属。仕事に取り組む姿勢がまじめで、利用者の方や現場の職員の要望には笑顔で的確かつ迅速に伝えてくれ、信頼も厚い。

『食べること』それは毎日の楽しみのひとつであり、欠かせないことです。足羽利生苑でも食事を楽しみにされている利用者の方が多いです。しかし身体的理由などで口から食べられなくなつた方、制限のある方など自分の思いどおりに食べるここのできない方もいます。

足羽利生苑では、平成22年4月より利用者の方に合わせて、よりきめ細かい栄養管理を行う栄養ケアマネジメントに力を入れ取り組んでいます。

そんな中で栄養士として働く前田さんの仕事に対する思いや望みを聞きました。

【気づき】

これまでの取り組みで難しかったことや失敗したこと
はありますか？

栄養ケアマネジメントを始めた頃は、血液の栄養状態を表す値や体重の変化ばかりに目がいつていました。数

字にしばらくは足りていません。また、職員は安全性を重視するあまり、汁物やお茶にむせにくくするためのとろみを強くするようになっていました。

ある時、「ご家族より「本人は本当はお茶が好きなのでさらつとしてくれるほうが飲みやすいような気がします」との話をうかがい試してみたら、むせずにうまく飲まれました。

このようにご家族の意見をうかがったり、利用者の方の様子を見させていただいたりしていると、栄養がどうのよりもまず、楽しく、おいしく食べていただくことが大切だということに、だんだん気づかされていきました。



直接かかわることで気づきも多い

【雰囲気づくり】

取り組みの中で今いちばん大事にしていることは何ですか？

現在、足羽利生苑では月一回の会食を行っています。ユニットごとにリクエストに応じたものを利用者の方と一緒に作っています。

楽しく、おいしく食べるには雰囲気づくりが大切です。みんなでもそば打ちをしたり、の場で大がままでゆがいたり、材料を準備して、すきやき鍋をワイワイみんなで囲んだり楽しみ方はさまざまです。作っている人の顔が見える、会話を楽しむ、音や香りを楽しむ、時には味見をするといったように五感で感じていたきたいと思っています。



すきやきの準備中

【これから】

今後はどうしていきたいですか？

「以前のように、はしを使って食べられるようになってほしい」「十分長生きしたので、今から胃に穴を開けて痛いことをさせたくない」など家族の思いはさまざまです。本人や家族の思いを大切に楽しく、おいしく食べるケアマネジメントを進めたいです。

今回、前田さんに話をうかがい、これまで知らなかった奥深い思いや望みを知ることができました。思いどおりに食べるのが困難な利用者の方にも「楽しんで」食べていただくため

の環境づくりを大切にしていることが、よくわかりました。これからも利用者の方々に「おいしい」と感じていただける食事が提供できるように、前田さんの今後の活躍を期待します。



すきやきを囲んで家庭的な雰囲気

～前田栄養士さん おススメのレシピ紹介～

みんなの広場



☆お年寄りにも大人気! 豆乳茶碗蒸し★

<材料・4人分>

- ・卵Lサイズ…2個
- ・豆乳…400cc
- ・だし汁…80cc
- ・A…みりん大さじ1、塩小さじ1/2、しょうゆ少々
- ・ささみ…一本
- ・塩・酒…適量
- ・生しいたけ…2枚
- ・赤板かまぼこ…8枚
- ・かいわれ大根(三つ葉でも可)…少々

- ① だし汁はAを入れて沸かし、さましておく。
- ② ささみは一口大にそぎ切りにして、塩・酒で下味をつけておく。
- ③ 生しいたけは3mm、かまぼこは5mmにスライスし、かいわれは細かくぎむ。
- ④ 卵はといて①と豆乳を混ぜ合わせ、ざるでこす。
- ⑤ 容器にささみ、しいたけ、かまぼこを入れ、④の汁を注ぐ。
- ⑥ 弱火で約15分蒸す。
- ⑦ つまようじを刺して透明な汁がでてきたら、蒸しあがっている上にかいわれをのせてできあがり。

【一口メモ】

固いものが食べにくい方には絹こしとうふを入れたり、上からあんをかけたりしても良い(あんの中にほぐしたカニカマや鳥ひき肉をいれてもOK)。

愛のささえ

ご協力ありがとうございました

平成22年12月1日から平成23年3月31日までの方々を掲載させていただきました。

【本部】

- (寄付・寄贈) 大和電建(株) 左建設(株) 渡辺漬物(株) 児玉印刷(株) (株)リカーショップ沖 (有)京新自動車 (株)ビー・アイ企画 (株)松尾工務店 (株)福井建材社 タキナミ製置 栄月(株) さわかライフ 白洋舎 村中建設(株) (株)福銀リース 三谷設備(株) 福井銀行東郷支店 (株)谷口文楽堂 福井県漁業協同組合連合会 山耕(株) あおい商事(株) (株)サン食品 たこや食品 (株)松田阿んころ (株)ヤマシタコーポレーション (株)ハヤカワ 西田建設(株) (有)笈田モーターズ 長谷川彰 園田ふとん店 (株)福井観光トラベルサービス (株)端野メディアカル あいえんらいふ 合同会社 (株)神久商店 藤井硝子店 (株)マルゼン福井営業所 北興産業(株) (株)FBCオンパイヤ (株)カワグチ 福井県環境保全協業組合 仲村家具(有) 轟産業(株) だるま屋商事(株) 医療法人和幸会

【足羽東保育園】

- (ボランティア・交流・訪問) 米澤佑香 奥野実夏 森裕喜 大和田千尋 長谷川まや 渡辺ほのか 三上千春 金巻理衣 鎌田喜与美 宮川定幸 やまびこ合唱団 ほのぼのサロン 東郷リリープ 昉生田 スキー場

【足羽学区・足羽更生園】

- (寄付・寄贈) 社財団 ミュージックバンド「天顛」 福井県繊維産元協同組合青年部会 カナカン (株)乾親会 宣興社 住友生命福井支社 仁愛女子高等学校 国際ソロプチミスト福井 仁愛女子短期大学付属幼稚園 中西正志 竹内ちづ子 山形善夫 (ボランティア・交流・訪問) 羽生小学校 酒生小学校 キリスト教婦人部 連合福井 N.T.T労働組合 アイビー医療福祉専門学校 福井県女子短期大学ボランティア さわか 福井地区美容師会 竹村勉 伊藤一子 吉川進 片岡道子 前川友麻 竹内優香 舛分勇輔 朝井美冴 河原優 (実習・見学) 福井県医療福祉専門学校

【足羽ワークセンター】

- (寄付・寄贈) 渡辺冷凍食品(株) 安田かまぼこ 内田精肉店 (株)伊藤園 児玉印刷(株) (株)福井建材社 ヤスタウエル フーズ(株) 北陸旅行(株) 窪田ブラステック(株) マエダセイカ(株) (ボランティア・交流・訪問) 高村智子 松原智子 畑節代 (研修・実習・見学) 福井県立南越養護学校 福井県立南養護学校 福井県医療福祉専門学校 アイビー医療福祉専門学校

【愛全園】

- (寄付・寄贈) 堀川定義 (ボランティア・交流・訪問) (株)伊藤園 福井県生命保険協会「愛のともしび募金」 (ボランティア・交流・訪問) 福井市赤十字奉仕団 松宮あさ子 村西ふじ子 賀川美智枝 本多幸雄 児玉美子 乗竹洋子 高橋雅子 林睦子 宇都宮友美 丸山美枝子 鍋島笹代 まことコワフユール 梯洋枝 米岡春幸 前川明信 上木隆子 定兼紘美 (研修・実習・見学) 啓新高等学校 (株)グレート 介護労働安全センター 福井県医療福祉専門学校

永平寺町社会福祉協議会 (財)熊谷福

みどり山グリーンクラブ

順不同・敬称略

編集後記

このたびの「東日本大震災」にて亡くなられた皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く被災地が復興されますようお祈り申し上げます。

理事長 高村昌裕

- 新年度がスタートし、にぎやかな保育園にウキウキ♥子どもたちとたくさん遊びます！ 持田(保)
- 広報委員卒業します。いろんなこと学べました。ありがとうございます。杉本(学)
- 広報委員になってもう3年が経ちました。早いものです。吉野(更)
- 「愛道」に携わったことは私の人生のターニングポイント 松井(更)
- 今年度も、たくさんの方との出会いを大切に成長していきたいらと思えます。長田(ワ)
- 五月晴れの空、鯉のぼりのようにあの大空をおもいっきり泳いでみたい。 糴川(愛)
- もうすぐ蛙の鳴き声が聞こえる時期ですね。次回も心温まる記事をお届けできるよう今から思案中です。 中川(愛)
- すっきりした青空のように気持ち新たに、いろんなことに挑戦してみたいです。 栗波(愛)
- 今号は足羽利生苑の広報委員として最初で最後の大事な仕事でした。印象に残る永久保存版です。 三上(愛)
- みなさんのご協力があり、記事を書くことができました。協力して下さった皆様ありがとうございました。 本田(利)
- 「前田」→北に変わりました。今後更にパワーアップして頑張ります。 北(利)
- 編集を通じて知り合えた「ご縁」を今後も大切にします。そして、これからも「支援」の縁の輪(和)を広げていきます。 江守(本)
- 被災地の復興を願いつつ、機関紙「愛道」編集メンバーの「縁」の下の力となるのが私の望み：懸命に臨みます。 安田(本)

発行所

社会福祉法人 足羽福祉会

足羽東保育園・足羽学園
足羽更生園・足羽ワークセンター
愛全園・足羽利生苑

〒910-2178 福井市榎野町20-7
TEL(0776)41-3108/FAX(0776)41-3199
http://www.asuwafukushikai.jp/

発行責任者 高村昌裕

※誌面の写真・氏名についてはご本人(または法定代理人)の同意を得て掲載しています。